

令和元年度 学校評価総括表

教育目標		日本国憲法、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の基本精神に基づき、人権を尊重する民主的な社会の形成者として、豊かな人間性と創造性を備えた生徒の育成を目指す。				総合評価
運営方針		生徒の学ぶ意欲を高め、魅力と活力ある学校作りのために教職員が一丸となって教育活動に取り組む。				
平成30年度の成果と課題		本年度重点目標	具体的目標			B
<p>キャリア教育の視点から教育活動全般を見直した。基本的な生活習慣の定着や規範意識の向上については、一定の成果はみられるが今後も引き続き「挨拶励行、正しい身だしなみ、時間厳守」の3項目について重点的に取り組む必要がある。</p> <p>また、学習面においては、教員の授業力向上を図り、生徒の学習意欲向上に努めるとともに、計画的に生徒の学力向上や検定取得に向けた取組を深め、生徒が主体的に進路決定できる体制の整備に努める。</p>		社会で通用する人材の育成	<p>確かな学力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善 ・資格取得の推進 			
			<p>豊かな人間性の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験的な学習活動の充実 ・人権感覚を高める取組を推進 			
			<p>たくましい心身の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育の推進 ・部活動への積極的加入 			
評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 および改善方策
学習指導	①基礎学力の充実	BasicStudyタイムは継続実施。さらに内容の充実を図る。また、自ら学び自ら考える主体的な学習姿勢を育てるために、宿題・課題の内容の充実を図る。	B	基礎学力の定着につながっている。しかし、学年・クラスによって取組に差がある。3年間でどのような力を身に着けたかを明確にする必要がある。	BSタイムを朝の学習に時間帯を変更する。学年ごとにBS計画表を策定し、それぞれの目標を明確にする。	BS時間帯の変更により、基礎学力の向上につなげて欲しい。
	②授業力の向上	分かる授業の実践及び授業の工夫改善のため、年2回の公開授業並びに研究協議の実施に努める。また観点別評価について考察し、成績評価の在り方を検討する。	B			
生活指導	①礼法・マナー・身だしなみ等に対する意識の向上	登下校時や授業の始業終業時等を通じて、挨拶・言葉遣い・身だしなみ等についての指導を継続し、意識の向上を図る。	C	日々の積み重ねの中で、特に上級生を中心に大きく崩れる生徒が目立つようになった。身だしなみでは、頭髪や制服の着こなしにおいて乱れた姿の生徒が多くなり、言葉使いや態度においてもその時の感情に流される生徒が多かった。	日常の気づいた事への小さな声かけや注意することを見逃すことで許される雰囲気生まれてくる。早めの段階で時間をかけ粘り強く指導を続けることが大切である。	
	②規則正しい生活習慣の確立	規則正しい生活習慣を身に付けさせることにより、遅刻や欠席・早退を減らす。遅刻については繰り返す生徒に対し、生活習慣の見直しや意識の改善を促し、時間を守る意識の向上を図る。	C	遅刻を繰り返す生徒に対し意識の改善につながる指導ができず、昨年に比べ大きく増加した。繰り返す生徒が多く出ることによって、周りの生徒へも悪影響となった。	基本的な生活習慣を確立できず、遅刻や欠席を繰り返す生徒に対しては、従来の指導ではなかなか効果がみられない。さらに踏み込んだ指導を検討する必要がある。	
進路指導	①就職先の開拓	企業との信頼関係を大切に、求人への依頼と情報収集に努める。150社以上に求人への依頼をし、積極的に企業を訪問する。	B	200を超える企業に求人依頼を行い、昨年以上の求人をいただくことができた。また、新規企業の開拓のため年間を通じて企業訪問活動を行った。	生徒の興味関心、適性にあった就職先を選択できるよう、インターンシップやガイダンスなどを通して、様々な職業について理解する機会を増やしていきたい。	社会で通用する人材育成のためには、心技体の中でも特に「心」の部分育ててもらいたい。インターンシップ拡充も望む。
	②多様な入試制度の活用	本校で取得した資格を活用できる入試制度を積極的に活用し、進学者数の増加を目指す。	B	進学者の90%以上が指定校推薦など資格や専門性を生かした選抜方法で進学をした。今後、上位校への進学者を増やせるよう、資格取得に取り組ませたい。	大学入試改革により、資格や専門性だけでなく、幅広い学力が求められることから、目標を持って充実した学校生活を遅れるような環境を作りたい。	

人権教育	①あらゆる差別に対しての生徒、職員の人権意識向上	毎月11日の「人権を確かめ合う日」に合わせ、人権啓発資料を準備し、生徒、職員が差別解消に向けた取り組みができる一助を担う。	B	部落問題について職員研修を実施。HR運営委員・人権クラブ員と共同で『NIC人権通信』を発行。「頭髪問題」「ダイバーシティ」など身近な問題を扱った。	県条例を受けて部落問題を考えてみたが、まだまだ意識改革は必要である。メディアリテラシーの問題とも重なっており、総合的な視点の提示を試みたい。	
	②違いを豊かさにつなげるHR展開	各学年のHRを利用し、ネットリテラシー、性的マイノリティ、男女共同参画、在日外国人問題等を学習する機会を持ち、共生社会に向けた意識向上をめざす。	B	学年別でHRと事前研修を実施。放送人権学習は人権クラブ員がすべてを運営した。「多様性」を考える機会とするとともに、「自己表現」の実例を提示した。	人権クラブの文化祭展示ではパラスポーツを扱った。ダイバーシティをめざして、多様性をともなう社会に臨んで、どんな意識が必要か提示する必要がある。	
文化活動	①読書習慣の確立による基礎力の向上	親しみやすく魅力的な図書室作りに努め、1日の利用者30名以上を目標とする。読書習慣の確立により落ち着いた学習態度を育成し基礎力を向上させる。	B	文化講座の実施や、学年の朝学の取組である読書会へ資料提供を行い、読書への関心を深める努力を行った。1日の平均図書館利用者は、32.1名であった。	各種の展示・イベント等を継続して行い、合わせて図書館の内容の、さらなる充実をはかる。	文化祭、市民会館利用後の清掃がしっかりしているので、評判が良い。
	②文化祭の充実・向上	生徒会・学年との連携を密にしなが、全校体制で文化祭実施にあたり、生徒の積極的な活動を促すことにより、自主性と協調性を向上させる。	B	生徒会や先生方と連携を行いながら、より良い文化祭を目指して生徒とともに努力することが出来た。準備期間を十分に持つようテーマの決定を早めに行う必要がある。	生徒の意欲を引き出し、協調性や企画力を養う事が出来る文化祭への取組を継続する。	
体育活動・健康教育	①体力の向上と部活動の活性化	トレーニング方法の工夫や事前指導を実施し体カテストで県平均を4種目以上上回る。女子の運動部加入率25%以上を目指す。	B	授業中のトレーニングや事前の指導を行ったが県平均を上回ったのは3種目であった。また、女子の運動部員の加入率はマネージャーを入れて25.7%であった。	今年度以上に授業中のトレーニングの工夫を行い目標達成を目指したい。	地域との交流、小学校への体カテスト、運動会の補助や挨拶運動などを積極的にを行い、社会貢献度は高い。
	②保健指導の推進	教科保健の授業や保健だよりを通して、生徒の健康に対する意識を高める。各種検診の精検受診率20%以上を目指す。	B	精検受診率については、歯科・尿検査・視力について目標の20%の達成には至らなかった。	受診率向上には、保健便りや個別指導を通して健康についての大切さを伝え本人、保護者の意識を高めていきたい。	
	③食育の充実	教科保健の授業や食育だよりを通して、食育の充実を図る。朝食摂取率75%以上を目指す。	B	保健の授業や食育便りを通して生徒に指導してきたが今年度は68%という結果に終わった。	今まで以上に朝食の摂取の大切さを保健の授業や食育便りまたは新しい取り組みを考える。	
環境整備活動	①環境美化を通じて公共心の育成	教室やトイレなど共用箇所について、正しく使用する必要性を折に触れて生徒に展開する。	B	トイレやその他の共有スペースの使用状況についてはあまり改善が見られなかった。清掃担当教員の取り組みの違いが見受けられた。	HRでの啓発活動や清掃担当教員による指導・確認の徹底を行う。トイレ清掃に関しては学期毎のクラス担当交代に戻す事も検討する。	通学路美化活動は、地域の小学生、中学生の模範となっている。
	②防災意識の向上	実践的な防災訓練を企画・実施する。	C	昨年の防災訓練の反省から実施時期をずらしたが天候の関係から訓練の実施内容を縮小することとなった。	次年度は防災訓練を10月実施に戻すと共に、自然災害などが多発している状況から「自助共助」の考え方もHRでの展開をお願いする。	
商業科	①検定取得の向上	各検定に向けて放課後に補習講座などを実施し、生徒の進路実現に結びつくための指導を行う。	C	商業科としてづくり募集をしていることから、各検定での上級資格が取得しにくい現状となっている。また担当者間の取り組みの差が見受けられる。	各教員の意識改革と指導力向上、3学期の検定週間以外で放課後補習体制の充実。	販売実習など地域の学校としてのPR活動が盛んに行われ、特色を前面に出してがんばっている。
	②実学教育の充実	実社会で通用するために、販売実習や商品開発などの体験的な学習の充実を図る。また諸活動を通じ地域活性化に繋がる取り組みの充実も図る。	B	部局たまつえを中心に様々な取り組みを実施した。またその他の販売実習も回数を重ねる事で充実が図られている。	担当教員の負担が大きいため、更なる発展のためには商業科だけでなく、普通科の先生方の協力を得られる体制が望ましい。	
情報科	①最新の情報科学を踏まえた学習指導の工夫	進展著しい情報技術を踏まえ、生徒の実態に合った丁寧な指導を行う。	A	プログラミングや3DCGなど、生徒の進路にも強く関わる内容を補習や社会人講師登用講座なども活用して展開できた。技術は日進月歩であり、今後も授業の在り方は評価、検討していくべきである。	補習や社会人講師登用講座とのさらなる連携を重視して授業を行う。	情報科はなくなるが、商業科の情報分野もアピールを続けて欲しい。
	②国家試験、検定合格率の向上	IPA主催の国家試験を中心に難関試験の合格を目指し、生徒の進路実現の一助となるように補習等の実施を工夫して行う。	B	ITパスポートなどの合格者も複数出ており、一定の成果を出すことができた。一方で技術職に就くことを考えた場合、基本情報技術者試験などの合格が必要になるため、こういった高難易度な試験の対策も系統立てて考える必要がある。	限られた人数での対応となるが、さらに細かい検定レベル別の補習等を実施する。	

A: 十分である B: ほぼ十分である C: あまり十分でない